

リユーズブル軟性膀胱鏡からシングルユースの軟性膀胱鏡への置き換えに対するドイツ、フランス、英国の市場の受け入れ体制

Sara Larsen, Lotte Klinton Ockert¹, Dinah Rindorf¹

¹Ambu社マーケットアクセス部（デンマーク、バレルプ）

キーワード：シングルユース、市場の受け入れ体制、膀胱鏡

序論と研究目的

リユーズブル膀胱鏡では、再処理に時間がかかったり、可用性の問題が生じたりする。また、経時的な性能の劣化もみられる。このため、シングルユース製品を用いたソリューションの需要が高まっている。こうした問題を克服するために画期的なシングルユース膀胱鏡を新たに上市した。そこで、シングルユース膀胱鏡の認識を評価し、この新たなシングルユース技術を採用するための市場の受け入れ体制を調査するため、欧州上位3カ国の市場を対象に研究を行った。

対象と方法

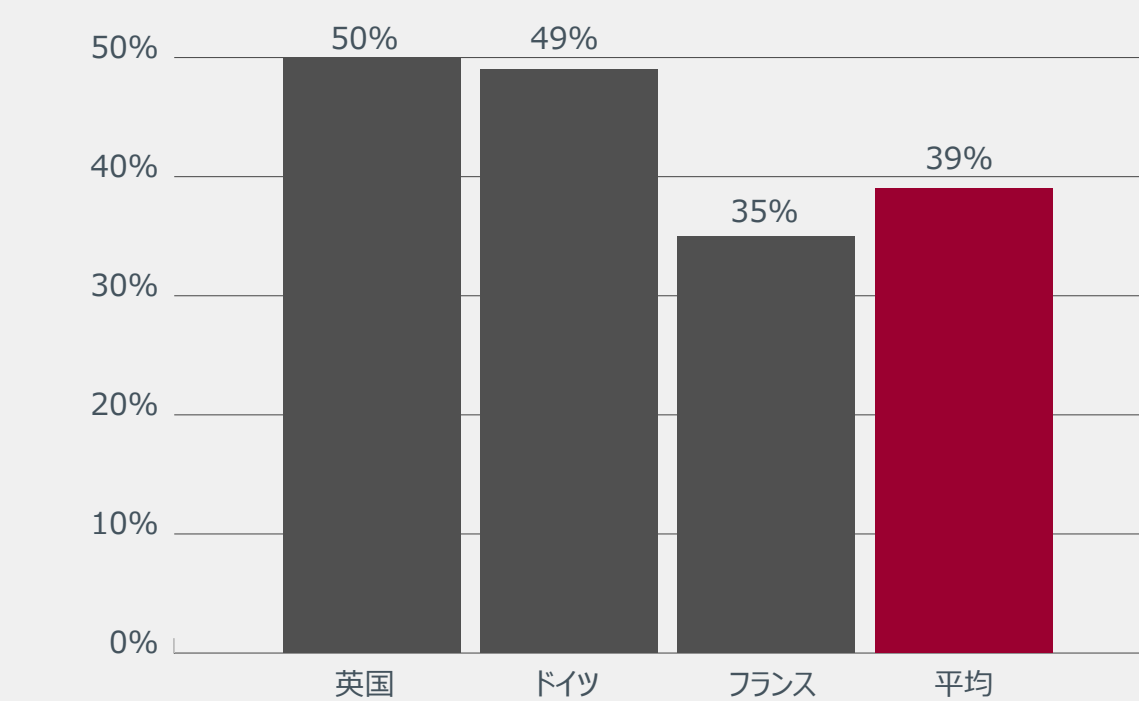
病院並びに診療所で膀胱鏡検査を実施している泌尿器科医に対し、リユーズブル膀胱鏡からシングルユース膀胱鏡に置き換えるにあたっての意識調査を電子媒体で実施し、2020年2月24日から2020年3月23日にかけて、合計105名より回答を得た。調査はドイツ、フランス、英国の泌尿器科医各35名を対象に実施した。データの収集はオンラインの調査ツール QuestionProを用い、Microsoft Excelで分析を行った。

参考文献

Phan et al., J Endolum Endourol Vol 1(1):e3-e16; April 16, 2018.

結果

回答者である泌尿器科医105名のうち、女性は12%、男性は88%であった。全回答者のうち71.4%が膀胱鏡検査の経験を10年以上有しており、13.3%が経験7年未満であった。膀胱鏡検査を行う全3カ国の泌尿器科医の回答によると、従来のリユーズブル膀胱鏡からシングルユース膀胱鏡に置き換えて現行の膀胱鏡検査を実施したい割合は平均で46%であった。



シングルユースに置き換えたい膀胱鏡検査の割合の平均値

英国の泌尿器科医の回答によると、シングルユース膀胱鏡に置き換えて実施したい検査の割合は平均で50%であった。これに対し、ドイツでは平均49%、フランスでは平均35%が置き換えて実施したいとする結果であった。

全回答者のうち、84.8%が現時点で膀胱鏡はすべて購入済みと回答し、11.4%が、膀胱鏡は購入済みのものとリースのものを併せて持っていると回答した。膀胱鏡はすべてリースであると回答した者は3.8%にとどまった。膀胱鏡が購入済みかリースかによって、シングルユース膀胱鏡に置き換える泌尿器科医の意向に差は見られなかった。膀胱鏡の利用待ちを頻繁に経験したと回答した者は全回答者の平均20%であった。膀胱鏡の利用待ちを頻繁に経験したと回答した泌尿器科医では、リユーズブル膀胱鏡をシングルユース膀胱鏡に置き換える意向を示す傾向が有意に高かった（ $p=0.005$ ）。

19% 可用性

17% 滅菌保証

15% コストの透明性

シングルユース膀胱鏡において最も重視する点

最後に、泌尿器科医に対し、シングルユースの膀胱鏡に関して最も重視する点について尋ねたところ、「可用性」が最も多く（19%）、「滅菌保証」（17%）、「コストの透明性」（15%）がこれに続いた。

結果の解釈

画期的なシングルユース膀胱鏡を採用する意向を泌尿器科医が示していることがわかる結果である。特に、膀胱鏡の利用待ちを頻繁に経験したと回答した泌尿器科医では、シングルユース膀胱鏡に置き換えて検査を実施したい割合が高くなる傾向が有意にみられた。シングルユース膀胱鏡に対して最も重視する点について尋ねた際も、可用性が最も上位であった。また、再処理や修理並びに全般的なメンテナンスが必要となる従来のリユーズブル膀胱鏡から、シングルユース膀胱鏡に置き換えるには、滅菌保証とコストの透明性も重要な要因になると考えられる。

結論

本研究から、ドイツ、フランス、英国の泌尿器科医は、膀胱鏡検査の実施にあたって現行のリユーズブル膀胱鏡からシングルユース膀胱鏡に置き換える意向を見せていることが明らかになった。加えて、可用性の問題に頻繁に直面した泌尿器科医では、リユーズブル膀胱鏡からシングルユース膀胱鏡に置き換えて膀胱鏡検査を実施したい割合の平均値が有意に高かった。

本要旨は英語で執筆、公表された原文を日本語に翻訳したものである。これは、EUGA会議で発表されたものである。